

資料紹介

近衛府下級官人補任稿―府生―（3）

西山史朗

はじめに

近衛府下級官人補任稿は、近衛府が成立した天平神護元年（七六五）から十三世紀半ばの期間における近衛府下級官人（将監・将曹・医師・府生・番長・案主・府掌・近衛^①）について、確認できうる補任状況を調査、整理したものである^②。将監及び府生は順次公表しており、本稿では保元元年（一一五六）から宝治二年（一二四八）までの府生在職者を掲載する^{③④}。

府生の補任稿については、当初予定していた採録期間の下限である十三世紀半ばに到達したため、本稿をもって一応の完成とする。しかし、既発表分及び今後公表していく補任稿の内容については今後も大方のご批正を乞い、修正を加えつつ確実性を高めていきたい。

一、凡例

①近衛府下級官人補任稿は左右近衛府のうち（表①）、将監・将曹・医師・府生・番長・案主・府掌・近衛の官人の補任状況を官職ごとに掲載するものである。そのうち本稿では、保元元年（一一五六）から宝治二年（一二四八）の期間における府生在職者をまとめている。

②左右近衛府いずれかに所属しているかが不詳の場合は、「左右不詳」の項目に記した。

③人物の表記について、位階が明らかである場合は「」内に記載し、位階が不明の場合は「（一）」と記載した。加階の記述がある場合は加階後の位階を記載、備考にその内容を記載した。府生以下には本来相当位階の規定は設けられていないが同様に記載した。

④在職である、あるいはそう思われる場合は「在」、新たに任じられた場合は「任」、すでに死去していることが明らかである場合は「故」を備考欄内の先頭に記載した。

⑤兼官兼職のほか、その他必要と思われる事項を備考欄に記載した。

⑥出典の記載は（『史料名』年月日）で示し、閏月は○枠で示した。基本的にその年の初見月日を記載したが、初見月日以降に詳細な所属、経歴などの記述が確認できる場合はその月日を記載した。

⑦それぞれの出典は（ ）内に記載し、また一部の史料名については次の通り略記した。史料のうち古記録史料の名称については、大日本古記録、史料大成、史料纂集にも収録されている古記録は、それぞれの名称をそのまま記載した。そのほか『群書類従』、『歴代残闕日記』、史料紹介などに収録、掲載されている古記録については、同一人物の日記でも、その名称がそれぞれ異なる場合が多い。そのため便宜的に記主の名前を冠して『○○卿記』、『○○公記』と記載した。また、史料紹介等でも取り上げられているものは注に出典を記載した。

略記一覧…『平安遺文』（『平遺』）、『本朝世紀』（『世紀』）、『古今著聞集』（『著聞』）、『東大寺統要録』（『統録』）、『宮寺

縁事抄』（『宮寺』）、『楽所補任』（『楽所』）、『競馬秘記』（『競秘』⁵）、『大間成文抄』（『大間』）、『魚魯愚鈔』（『魚魯』）、『御産部類記』（『産部』）、『仙洞御移徙部類記』（『移徙』）、『御讓位記』（『讓位』）、『九条家本紙背文書集 中右記』（『九中』）、『兵範記』（『兵範』）、『山槐記』（『山槐』）、『愚昧記』（『愚昧』）、『顯広王記』（『顯広』⁶）、『後白河院御落飾記』（『落飾』⁷）、『文治元年後白河院賀茂御幸記』（『文治』⁸）、『後鳥羽院宸記』（『後鳥羽』）、『明月記』（『明月』）、『三長記』（『三長』）、『葉黄記』（『葉黄』）、『猪隈関白記』（『猪隈』）、『岡屋関白記』（『岡屋』）、『資頼卿記』（『資頼』）、『荒涼記』（『荒涼』）、『民経記』（『民経』）、『経俊卿記』（『経俊』）、『為経卿記』（『為経』）、『公光卿記』（『公光』）、『賀茂御幸記』（『賀茂』）、『宇治御幸記』（『御幸』）、『妙槐記』（『妙槐』）、『後深草天皇御記』（『後深草』）、『吾妻鏡』（『吾妻』）

⑧表作成にあたって、笹山晴生「左右近衛府官人・舍人補任表―下級官人・舍人その（二）―」（『東京大学教養学部人文学科紀要』六一、一九七五）、「左右近衛府官人・舍人補任表―下級官人・舍人その（二）―」（『東京大学教養学部人文学科紀要』六六、一九七八）も参照した。

⑨人物比定について、刊本史料上では、姓あるいは名が同名同音の場合、人物の混同が考えられる事例がみられる。こ

のような場合や姓名いずれかの記載が無い場合などは、編纂者によって人物ならびに姓名の同定・推定がなされているが、疑問無しとしない部分もある。本補任稿では『群書類図部集』、『樂家系図』⁹ および京都大学附属図書館所蔵『下毛野氏系図』・『秦氏系図』所収の諸氏系図、『平安時代史事典』¹¹ も参照し改めて姓名の推定を行い、備考欄にその旨を記載した。

¹⁰史料上、「○○子」、「○○男」と表記され、人物比定が困難なものは、人物欄中に「○○子」と統一して表記した。

¹¹人物によっては数年以上にわたり近衛府官職に在職していることが確認できるが、その間一部の年において人名の記載は有るものの官職が確認できない例が散見される。この事例においては、前後の時期における在職状況から帯する官職の推定は可能だが、本補任稿ではあえて掲載していない。これは十二世紀後期には、同一の近衛府下級官人が降格、昇進を繰り返す事例も一部見受けられることによる。

註

(1) 本補任稿では、将監以下の近衛府官人を近衛府の下級官人と区分している。この区分は笹山氏による近衛府大将・中将・少将を上級官人、近衛府将監以下を下級官人とする理解に従ったものである。詳しくは、笹山晴生「平安前期の左右

近衛府に関する研究」(坂本太郎博士還暦記念会編『日本古代史論集』下所収、吉川弘文館、一九六二)、同「左右近衛府上級官人の構成とその推移」(土田直鎮先生還暦記念会編『奈良平安時代史論集』下所収、吉川弘文館、一九八四、以上『日本古代衛府制度の研究』(東京大学出版会、一九八五)に再収)を参照。

(2) 近衛府官人の補任状況をまとめたものとして、市川久編『近衛府補任 第一』(続群書類従完成会、一九九二)、同『近衛府補任 第二』(続群書類従完成会、一九九三)、笹山晴生「左右近衛府官人・舍人補任表―下級官人・舍人その(一)―」(『東京大学経学部人文科学紀要』六十一、一九七五)、同「左右近衛府官人・舍人補任表―下級官人・舍人その(二)―」(『東京大学経学部人文科学紀要』六十六、一九七八)がある。本補任稿は、これらの補任類の欠を補うかたちで作成している。

(3) 拙稿「近衛府下級官人補任稿(1)」(『佛教大学大学院紀要―文学研究科篇―』四六、二〇一八)、「近衛府下級官人補任稿―府生―(1)」(『鷹陵史学』四四、二〇一八)、「近衛府下級官人補任稿(2)―将監―」(『佛教大学大学院紀要―文学研究科篇―』四七、二〇一九)、「近衛府下級官人補任稿―府生―(2)」(『鷹陵史学』四五、二〇一九)、「近衛府下級官人補任稿(3)―将監―」(『佛教大学大学院紀要―文学研究科篇―』四八、二〇二〇)。

(4) 近衛府下級官人補任稿の作成意図ならびに近衛府や近衛府下級官人に関する先行研究は、註(3) 拙稿において言及しているため、そちらを参照されたい。

(5) 土橋誠「翻刻『競馬秘記』(上)」(『京都文化博物館研究紀

- 要朱雀』十六、二〇〇四）、同「翻刻『競馬秘記』（下）」
〔『京都文化博物館研究紀要朱雀』十七、二〇〇五）
- (6) 高橋昌明・樋口健太郎『国立歴史民俗博物館所蔵『顕広王記』応保三年・長寛三年・仁安二年卷』（国立歴史民俗博物館研究報告）一三九、二〇〇八）、同『国立歴史民俗博物館所蔵『顕広王記』承安四年・安元二年・安元三年・治承二年卷』（国立歴史民俗博物館研究報告）一五三、二〇〇九）。
- (7) 米田雄介・詫間直樹『伏見宮本『後白河院御落飾記』について』（古代学協会編『後白河院―動乱期の天皇―』、吉川弘文館、一九九三）。
- (8) 藤原重雄『菊亭家本の賀茂（鴨）御幸記二種―洞院家文庫の遺品―』（田島公編『禁裏・公家文庫研究 第一輯』、思文閣出版、二〇〇三）
- (9) 『群書系図部集』一〇七（統群諸類従完成会、一九七三）。
- (10) 「楽家系図」（『伏見宮旧蔵楽書集成 三』所収、宮内庁書陵部、一九九八）。
- (11) 『平安時代史事典』（角川書店、一九九四）。

9～12c における左右近衛府官制表						
表①	官職	総称	相当位階	左右合計 員数	隨身・ 權隨身	樂人・ 舞人
区分	官職	総称	相当位階	左右合計 員数	隨身・ 權隨身	樂人・ 舞人
上級職	大將	—	正・從二位(從三位)	2(2)	—	—
	中將	—	正三位～從四位(從四位下)	2～6(2)		—
	少將	—	從四位下～從五位(從五位下)	4～8(4)		—
	將監	官人	從五位～正六位(從六位上)	8～(8)		○
	將曹	官人	從五位～從七位(從七位下)	16～(8)		○
下級職	医師	—	從五位～正六位(正八位)	1～(2)	—	—
	府生	官人	正六位上～從七位	20～(12)	○	○
	番長	—	—	13～(12)	○	—
	案主	物節	—	4～	—	—
	府掌	—	—	5～	○	—
	近衛	—	從八位～大初位・无位	27～(400)	○	—
	駕輿丁	—	—	—	—	—
	使部	—	—	(20)		—
	直丁	—	—	(4)		—

・左表は「近衛府補任」、『公卿補任』、各古記録、能山時生氏「日本古代衛府制度の研究」(東京大学出版会、1985)、古藤真平「近衛府・近衛府官員制度の再検討」(角田文衛先生牽寿記念会編「古代世界の諸相」、晃洋書房、1993所収)を参照して作成した。

・区分の項については、能山氏(上掲)の近衛府内における官職格差に関する理解に従って区分している。

・位階および左右合計員数項について、それぞれの位階は史料より確認できる位階の範囲を記載し、また左右合計員数については史料から確認できる最低限の人数を記載した。

・() 内は、古藤氏(上掲)が復元された弘仁格式制時の左右近衛府の官員制を参照した。

・なお、9c 以前の近衛府官職のうち、案主は長徳4年(988)に、府掌は元慶5年(881)にみえるのが史料上での初見である。

・総称の項は、各古記録において近衛府の各職がそれぞれのように総称されていたかを記載した。詳しくは吉川真司編「京都大学文学部博物館の古文書」第4輯「勅修寺家本職掌部類」(思文閣出版、1989)、佐々木恵介「『小右記』にみる摂関期近衛府の政務運営」(同「日本古代の官司と政務」、吉川弘文館、2018(初出1993))を参照。

・隨身、樂人・舞人、年預、庁頭の項については、近衛府官人が兼帯する職務の有無について示した。

左右近衛府府生				左右近衛府府生			
和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典		右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
保元元年(1156)	拍行時(一)	在：『(樂所)』		玉手清貞(一)	在：『(樂所)』		
	拍季時(一)	在：『(樂所)』		豊原光元(一)	在：『(樂所)』		
	豊原光秋(一)	故：この年死去。(『樂所』)		三宅正光(一)	在：『(樂所)』		
	大神是光(一)	在：『(樂所)』		豊原為持(一)	在：『(樂所)』		
	拍光久(一)	在：『(樂所)』		下毛野武成(一)	在：鎌倉長。(『兵範』保元・2・5)/ 『山籠』同2・3・17)		
	拍光行(一)	在：『(樂所)』					
	尾張兼次(一)	在：『(樂所)』					
	拍則近(一)	在：『(樂所)』					
	清原種方(一)	在：『(樂所)』/『(兵範)』保元1・3・3)					
	拍光助(一)	在：『(樂所)』					
	拍行近(一)	在：『(樂所)』					
	兼兼文(一)	在：人長。(『兵範』保元1・3・10)					

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
保元2年(1157)	葵兼輝(一)	在：〔兵範]保元1・4・11)				
	下毛野敦正(一)	在：(同上)				
	下毛野敦忠(從七位上)	在：府生の旁により任將曹の例は不易の通例、[累業近任之家に生まれ、功あるにより將曹に任ず。(六間]第八「転任)				
	拍行時(一)	在：〔梁所]	玉手清貞(一)	在：〔梁所]		
	拍季時(一)	在：〔梁所]	豊原光元(一)	在：〔梁所]		
	大神是光(一)	在：〔梁所]	三宅正光(一)	在：〔梁所]		
	拍光久(一)	在：〔梁所]	豊原為持(一)	在：〔梁所]		
保元3年(1158)	拍光行(一)	在：〔梁所]	下毛野武成(一)	在：雜色長。(〔兵範]保元2・1・12)		
	尾張兼次(一)	在：〔梁所]	下毛野敦則(一)	在：〔兵範]保元2・4・11)		
	拍則近(一)	在：〔梁所]				
	清原種方(一)	在：〔梁所]				
	拍光勘(一)	在：〔梁所]				
	拍行近(一)	在：〔梁所]				
	拍光景(一)	任：4月、左近府生に任ず。拍光時孫。(〔梁所]				
	小部清近(一)	任：左近府生に任ず。小部清延孫。(〔梁所]				
	葵兼文(一)	在：〔兵範]保元2・4・11)/崇徳上皇隨身。(〔寛広]同2・10・21)/人長。(〔兵範]同2・11・7)				
	中臣兼友(一)	在：〔兵範]保元2・7・8)				
保元3年(1158)	拍行時(一)	在：〔梁所]／〔兵範]保元3・6・28)	玉手清貞(一)	在：〔梁所]	(姓不詳)為末 〔一)	在：〔兵範]保元3・6・28)
	拍季時(一)	在：(同上)	豊原光元(一)	在：翌年、雅樂頭に転任か。(〔梁所]		
	大神是光(一)	在：(同上)	三宅正光(一)	在：〔梁所]		
	拍光久(一)	在：〔梁所]／〔兵範]保元3・3・3)	豊原為持(一)	在：〔梁所]		
	拍光重(一)	任：還任。(〔梁所]	佐伯重文(一)	在：〔兵範]保元3・4・17)／〔山範]同3・9・19)		

拍光行〔－〕	在：〔築所〕	藥兼種〔－〕	在：「右近府生上。〔兵範〕保元3・4・20/〔山槐〕同3・9・19/〔鏡秘〕		
尾張兼次〔－〕	在：〔築所〕	下毛野教方〔－〕	在：「厚方」につくる。〔兵範〕保元3・4・20/〔山槐〕同3・9・19		
拍則近〔－〕	在：〔築所〕	下毛野忠利〔－〕	在：〔兵範〕保元3・4・20/後白河上皇隨身か。〔兵範〕同3・8・17/〔左近府生上。後白河上皇隨身。〔山槐〕同3・8・17・8・25		
清原種方〔－〕	在：〔築所〕	中臣季重〔－〕	在：〔兵範〕保元3・6・27/〔山槐〕同3・9・19		
拍光勘〔－〕	在：〔築所〕	下毛野諸武〔－〕	在：この年番長より府生に任じるか。藤原基実隨身。〔師武〕につくる。〔兵範〕保元3・8・18/藤原基実隨身。〔山槐〕同3・8・25/右府生。〔兵範〕同3・10・20		
拍行近〔－〕	在：〔築所〕	惟宗清經〔－〕	在：〔兵範〕保元3・10・28		
拍光景〔－〕	在：〔築所〕	藥兼頼〔－〕	任：番長より府生に任ず。〔山槐〕保元3・8・17/後白河上皇隨身。〔山槐〕同3・8・25		
小部清近〔－〕	在：〔築所〕	下毛野教正〔－〕	在：「府名」上。〔山槐〕保元3・7・4/〔鏡秘〕三月廿五日		
(姓不詳)助正〔－〕	在：「助元」の誤りか。〔築所〕				
藥兼久〔－〕	在：人長。〔兵範〕保元3・3・12				
藥兼種〔－〕	在：人長。兼久の誤りか。〔兵範〕保元3・3・22				
下毛野教則〔－〕	在：「厚則」につくる。〔兵範〕保元3・4・20/〔山槐〕同3・9・19				
藥兼成〔－〕	在：〔兵範〕保元3・4・20/〔山槐〕同3・9・19				
藥兼文〔－〕	在：〔兵範〕保元3・4・20/大將隨身。〔山槐〕同3・7・4				
拍光親〔－〕	在：左近府生より左兵衛尉に任ず。〔兵範〕保元3・5・28				
藥行重〔－〕	在：〔兵範〕保元3・6・27				
下毛野武成〔－〕	在：藤原忠通隨身か。〔兵範〕保元3・8・11/藤原基実隨身。〔山槐〕同3・8・25				

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
	(姓不詳) 光方 〔一〕	在：「拍光方」。(『兵範』保元3・10・28)				
	中臣兼友〔一〕	在：藤原忠通雜色長。(『兵範』保元3・10・28)				
	大石(名不詳) 〔正六位上〕	在：「正六位上行」。(『山槐』保元3・8・2)				
	泰兼盛〔一〕	在：「鏡秘」三月廿五日)				
	佐伯重文〔一〕	在：(同上)				
平治元年(1169)	拍行時〔一〕	在：「〔樂所〕」	玉手清貞〔一〕	在：「〔樂所〕」		
	拍季時〔一〕	在：「〔樂所〕」	三宅正光〔一〕	在：「〔樂所〕」		
	大神是光〔一〕	在：「〔樂所〕」	豊原為持〔一〕	在：「為茂」につくる。(『樂所』)		
	拍光久〔一〕	在：「〔樂所〕」	玉手宗清〔一〕	在：もと右衛門府生、薬師寺舞人。 〔『樂所』〕		
	拍光重〔一〕	在：「〔樂所〕」	玉手近清〔一〕	在：「〔樂所』」		
	拍光行〔一〕	在：「〔樂所』」	泰兼国〔一〕	在：「大将隨身」。藤原公能隨身。 〔『山槐』平治1・9・20)		
	尾張兼次〔一〕	在：「包次」につくる。(『樂所』)				
	拍則近〔一〕	在：「〔樂所』」				
	清原種方〔一〕	在：「〔樂所』」				
	拍光助〔一〕	在：「〔樂所』」				
	拍行近〔一〕	在：「〔樂所』」				
	拍光景〔一〕	在：「〔樂所』」				
	小部清近〔一〕	在：「〔樂所』」				
	(姓不詳) 助元 〔一〕	在：「〔樂所』」				
	拍季長〔一〕	任：左近衛生に任ず。拍季時男。 〔『樂所』〕				
	大石光堅〔一〕	在：「〔山槐』保元4・1・9)				
承暦元年(1160)	拍行時〔一〕	在：「〔樂所』」	玉手清貞〔一〕	在：「〔樂所』」	大石光堅〔一〕	在：片頭。(『山槐』承暦1・11・17)
	拍季時〔一〕	在：「〔樂所』」	三宅正光〔一〕	在：「〔樂所』」		
	大神是光〔一〕	在：「〔樂所』」	豊原為持〔一〕	在：「為茂」につくる。(『樂所』)		
	拍光久〔一〕	在：「〔樂所』」	玉手宗清〔一〕	在：「〔樂所』」		
	拍光重〔一〕	在：「〔樂所』」	玉手近清〔一〕	在：「〔樂所』」		

	拍光行〔－〕	在：〔〔樂所〕〕	安部季遠〔－〕	任：右近所生に任ず。〔〔樂所〕〕		
	清原種方〔－〕	在：〔〔樂所〕〕				
	拍光助〔－〕	在：〔〔樂所〕〕				
	拍行近〔－〕	在：〔〔樂所〕〕				
	拍光景〔－〕	在：〔〔樂所〕〕				
	小部清近〔－〕	在：〔〔樂所〕〕				
	〔姓不詳〕助元〔－〕	在：〔〔樂所〕〕				
	豐原公秀〔－〕	任：左近所生に任ず。光元男。〔〔樂所〕〕				
	〔姓不詳〕則正〔－〕	任：左近所生に任ず。〔〔樂所〕〕				
	拍清光〔－〕	任：拍光行男。左近府生に任ず。〔〔樂所〕〕				
	泰兼任〔－〕	在：後白河上皇隨身。〔〔山槐〕永曆1・9・20〕				
	佐伯重文〔－〕	在：〔同上〕				
	中臣季近〔－〕	任々；府生に任じる由あり。〔〔山槐〕永曆1・8・17〕/〔〔山槐〕同1・9・20〕				
	泰兼清〔－〕	在：〔〔山槐〕永曆1・9・20〕				
	泰兼文〔－〕	在：〔同上〕				
	下毛野敷則〔－〕	在：〔同上〕				
応保元年(1161)	拍行母〔－〕	在：〔〔樂所〕〕	玉手清貞〔－〕	在：〔〔樂所〕〕		
	大神是光〔－〕	在：〔〔樂所〕〕	三宅正光〔－〕	在：〔〔樂所〕〕		
	拍光久〔－〕	在：〔〔樂所〕〕	豐原為持〔－〕	在：〔〔為茂〕につくる。〔〔樂所〕〕〕		
	拍光重〔－〕	在：〔〔樂所〕〕	玉手宗清〔－〕	在：〔〔樂所〕〕		
	拍光行〔－〕	在：〔〔樂所〕〕	玉手近清〔－〕	在：〔〔樂所〕〕		
	清原種方〔－〕	在：〔〔樂所〕〕	安部季遠〔－〕	在：〔〔樂所〕〕		
	拍光助〔－〕	在：〔〔樂所〕〕	紀為安〔－〕	任：右近所生に任ず。〔〔樂所〕〕		
	拍行近〔－〕	在：〔〔樂所〕〕	〔姓不詳〕近秀〔－〕	任：右近所生に任ず。〔〔樂所〕〕		
	拍光景〔－〕	在：〔〔樂所〕〕	泰兼任〔－〕	在：後白河上皇隨身。〔〔山槐〕応保1・4・19〕		
	小部清近〔－〕	在：〔〔樂所〕〕				

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
	(姓不詳) 助元 〔一〕	在：〔〔楽所〕〕				
	豊原公秀〔一〕	在：〔〔楽所〕〕				
	(姓不詳) 則正 〔一〕	在：〔〔楽所〕〕				
	大神光茂〔一〕	在：大神是光男。〔〔楽所〕〕				
	(姓不詳) 則藤 〔一〕	在：〔〔楽所〕〕				
	狛守光〔一〕	任：左近衛府生に任ず。狛光行二男。 〔〔楽所〕〕				
	下毛野武成〔一〕	在：藤原基実隨身。〔山槐〕応保1・4・19)				
	兼兼成〔一〕	在：〔府官人〕。(同上)				
	狛季時〔一〕	在：府生の弟をもって任将曹の例、不協の例といえども、舞曲者重代之家業、奉公の勞などにより将曹に任ず。〔大圃〕第Ⅷ(転任)				
応保2年(1162)	狛行時〔一〕	在：〔〔楽所〕〕	玉手清貞〔一〕	在：〔〔楽所〕〕		
	大神是光〔一〕	在：〔〔楽所〕〕	三宅正光〔一〕	在：〔〔楽所〕〕		
	狛光久〔一〕	在：〔〔楽所〕〕	豊原為持〔一〕	在：〔〔為茂〕につくる。〔〔楽所〕〕〕		
	狛光重〔一〕	在：〔〔楽所〕〕	玉手宗清〔一〕	在：〔〔楽所〕〕		
	狛光行〔一〕	在：〔〔楽所〕〕	玉手近清〔一〕	在：〔〔楽所〕〕		
	清原種方〔一〕	在：〔〔楽所〕〕	安部季遠〔一〕	在：〔〔楽所〕〕		
	狛光助〔一〕	在：〔〔楽所〕〕	紀為安〔一〕	在：〔〔楽所〕〕		
	狛行近〔一〕	在：〔〔楽所〕〕	(姓不詳) 近秀 〔一〕	在：〔〔楽所〕〕		
	狛光景〔一〕	在：〔〔楽所〕〕				
	小部清近〔一〕	在：〔〔楽所〕〕				
	(姓不詳) 助元 〔一〕	在：〔〔楽所〕〕				
	豊原公秀〔一〕	在：〔〔楽所〕〕				
	(姓不詳) 則正 〔一〕	在：〔〔楽所〕〕				
	大神光茂〔一〕	在：〔〔楽所〕〕				

	(姓不詳)則廉 〔一〕	在：9月、鎮西に下向する。〔樂所〕				
長寛元年(1163)	拍行時〔一〕	在：〔樂所〕	玉手清貞〔一〕	在：〔樂所〕		
	大神是光〔一〕	在：〔樂所〕	三宅正光〔一〕	在：〔樂所〕		
	拍光久〔一〕	在：〔樂所〕	豊原為持〔一〕	在：「為茂」につくる。〔樂所〕		
	拍光重〔一〕	在：〔樂所〕	玉手宗清〔一〕	在：〔樂所〕		
	拍光行〔一〕	在：〔樂所〕	玉手近清〔一〕	在：〔樂所〕		
	清原種方〔一〕	在：〔樂所〕	安部季遠〔一〕	在：〔樂所〕		
	拍光助〔一〕	在：〔樂所〕	紀為安〔一〕	在：〔樂所〕		
	拍行近〔一〕	在：〔樂所〕	(姓不詳)近秀 〔一〕	在：〔樂所〕		
	拍光景〔一〕	在：〔樂所〕				
	小部清近〔一〕	在：〔樂所〕				
	(姓不詳)助元 〔一〕	在：〔樂所〕				
	豊原公秀〔一〕	在：〔樂所〕				
	(姓不詳)則正 〔一〕	在：〔樂所〕				
	大神光茂〔一〕	在：〔樂所〕				
	(姓不詳)則廉 〔一〕	在：〔樂所〕				
永元元年(1165)	拍行時〔一〕	在：〔樂所〕	玉手清貞〔一〕	在：〔樂所〕		
	大神是光〔一〕	在：〔樂所〕	三宅正光〔一〕	在：〔樂所〕		
	拍光久〔一〕	在：〔樂所〕	豊原為持〔一〕	在：「為茂」につくる。〔樂所〕		
	拍光行〔一〕	在：〔樂所〕	玉手宗清〔一〕	在：〔樂所〕		
	清原種方〔一〕	在：〔樂所〕	玉手近清〔一〕	在：〔樂所〕		
	拍光助〔一〕	在：〔樂所〕	安部季遠〔一〕	在：〔樂所〕		
	拍行近〔一〕	在：〔樂所〕	紀為安〔一〕	在：為保につくる。〔樂所〕		
	拍光景〔一〕	在：〔樂所〕	(姓不詳)近秀 〔一〕	在：〔樂所〕		
	小部清近〔一〕	在：〔樂所〕				
	(姓不詳)助元 〔一〕	在：〔樂所〕				
	豊原公秀〔一〕	在：〔樂所〕				

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
	(姓不詳)則正 〔一〕	在：〔『樂所』〕				
	大神光茂〔一〕	在：〔『樂所』〕				
	拍季久〔一〕	在：左近衛府生に在す。拍季時二男。 〔不伝舞曲〕。〔『樂所』〕				
仁安元年(1166)	拍行時〔一〕	在：〔『樂所』〕	玉手清貞〔一〕	在：〔『樂所』〕	榮兼成〔一〕	在：源雅定隨身。〔『世紀』仁平1・11・11〕
	大神星光〔一〕	在：〔『樂所』〕	三宅正光〔一〕	在：〔『樂所』〕	榮頼文〔一〕	在：〔『愚昧』仁安1・10・10〕
	拍光久〔一〕	在：〔『樂所』〕	豐原為持〔一〕	在：〔為茂〕につくる。〔『樂所』〕		
	拍光行〔一〕	在：〔『樂所』〕	玉手宗清〔一〕	在：〔『樂所』〕		
	清原種方〔一〕	在：〔『樂所』〕	玉手近清〔一〕	在：〔『樂所』〕		
	拍光助〔一〕	在：〔『樂所』〕	安部季遠〔一〕	在：〔『樂所』〕		
	拍行近〔一〕	在：〔『樂所』〕	紀為安〔一〕	在：〔為保〕につくる。〔『樂所』〕		
	拍光景〔一〕	在：〔『樂所』〕	(姓不詳)近秀 〔一〕	在：〔『樂所』〕		
	小部清近〔一〕	在：〔『樂所』〕	中臣近武〔一〕	在：後白河上皇隨身。上藤。〔『兵範』,『愚昧』仁安1・10・10〕		
	(姓不詳)助元 〔一〕	在：〔『樂所』〕				
	豐原公秀〔一〕	在：〔『樂所』〕				
	(姓不詳)則正 〔一〕	在：〔『樂所』〕				
	大神光茂〔一〕	在：〔『樂所』〕				
仁安2年(1167)	秦兼任〔一〕	在：後白河上皇隨身。上藤。〔『兵範』,『愚昧』仁安1・10・10〕				
	拍行時〔一〕	在：〔『樂所』〕	玉手清貞〔一〕	在：〔『樂所』〕	下毛野教助〔一〕	在：〔『厚達』につくる。〔『兵範』仁安2・10・21〕/〔『玉範』同2・10・21〕
	大神星光〔一〕	在：〔『樂所』〕	三宅正光〔一〕	在：〔『樂所』〕	秦兼任〔一〕	在：〔『山槐』仁安2・4・27〕/〔『玉範』同2・10・21〕/〔『顯広』同2・10・25〕/〔『兵範』同2・10・26〕
	拍光久〔一〕	在：〔『樂所』〕	豐原為持〔一〕	在：〔為茂』につくる。〔『樂所』〕	下毛野教頼〔一〕	在：〔『厚頼』につくる。〔『兵範』仁安2・10・21〕
	拍光行〔一〕	在：〔『樂所』〕/諸会樂頭職相伝。(『平達』3422)	玉手宗清〔一〕	在：〔『樂所』〕	下毛野教遠〔一〕	在：〔『厚達』につくる。〔『顯広』仁安2・10・25〕/〔『兵範』同2・10・26〕

清原種方〔一〕	在：〔樂所〕	玉手近清〔一〕	在：〔樂所〕	秦兼盛〔一〕	在：〔御隨身。〔山櫓〕仁安2・2・11〕
拍光助〔一〕	在：〔樂所〕	安部季遠〔一〕	在：〔樂所〕		
拍行近〔一〕	在：〔樂所〕	紀為安〔一〕	在：為保につくる。〔樂所〕		
拍光景〔一〕	在：〔樂所〕	〔姓不詳〕近秀〔一〕	在：〔樂所〕		
小部清近〔一〕	在：〔樂所〕	尾張則兼〔一〕	任：右兵衛志尾張則元二男。右近府生に任ず。〔樂所〕		
〔姓不詳〕助元〔一〕	在：〔樂所〕	秦兼国〔一〕	在：〔顯広〕仁安2・2・13/後白河上皇隨身。〔山櫓〕同2・3・19/後白河上皇隨身。〔顯広〕仁安2・4・30/〔玉葉〕同2・10・21/〔顯広〕同2・10・25/〔院左府生〕。〔兵範〕同2・11・21/後白河上皇隨身。〔兵範〕同2・11・27		
豊原公秀〔一〕	在：〔樂所〕	秦賴文〔一〕	在：〔左官人〕。〔顯広〕仁安2・2・13/後白河上皇隨身。〔左府生〕。〔山櫓〕同2・4・30/後白河上皇隨身。〔顯広〕仁安2・4・30/〔兵範〕。〔玉葉〕同2・10・21/左近府生。〔隱味〕同2・10・21/〔顯広〕同2・10・25/後白河上皇隨身。〔兵範〕同2・11・27		
〔姓不詳〕則正〔一〕	在：〔樂所〕	秦兼清〔一〕	在：人長。〔隱味〕仁安2・3・20/人長。藤原基房隨身。〔山櫓〕同2・4・19/〔右府生〕。〔山櫓〕同2・4・30/藤原基房隨身。〔顯広〕同2・4・30/〔玉葉〕同2・10・21/〔顯広〕同2・10・25/〔兵範〕同2・10・26/藤原基房隨身方。〔兵範〕仁安2・11・27		
大神光茂〔一〕	在：〔樂所〕	下毛野武春〔一〕	在：〔顯広〕仁安2・10・25/〔兵範〕同2・10・26/〔左府生〕。〔兵範〕同2・12・10		
小部元清〔一〕	任：左近府生に任ず。小部清久男。〔樂所〕	下毛野諸武〔一〕	在：〔御武〕につくる。〔顯広〕仁安2・10・25/〔兵範〕同2・10・26/〔兵範〕同2・11・10		
拍行元〔一〕	任：10月、左近府生に任ず。〔樂所〕	秦兼仲〔一〕	在：〔大將殿隨身〕。〔山櫓〕仁安2・4・30/藤原忠雅隨身。〔顯広〕仁安2・4・30/〔玉葉〕同2・10・21		

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
	紀重延〔-〕	任：左近府生に任ず。紀元延男。 〔〔樂所〕〕	下毛野敦経〔-〕	在：藤原経宗隨身。「敦恒」につく る。〔山樵〕仁安2・4・30/〔厚経〕 仁安2・4・30/〔玉業〕同2・10・ 21〕		
	坂上行兼〔-〕	任：11月、左近府生に任ず。〔〔樂 所〕〕				
	拍時承〔-〕	任：左近府生に任ず。拍季長男。 〔〔樂所〕〕				
	秦兼成〔-〕	在：〔右官入〕。〔顯広〕仁安2・2・ 13/後白河上皇隨身。〔山樵〕同2・ 2・14/平清盛隨身。〔山樵〕「顯 広」同2・4・30/入長。〔内侍所御 神樂部類〕仁安二年/入長。〔〔兵範〕 同2・10・26/府番〕。入長。〔〔兵範〕 同2・11・27〕				
	下毛野武成〔-〕	在：藤原基房隨身か。〔〔兵範〕仁安 2・7・27/〔顯広〕同2・10・25/〔 〔兵範〕同2・10・26/府〕。〔〔兵 範〕同2・11・27/維也長。〔〔兵範〕 同2・12・1〕				
	下毛野公員〔-〕	在：〔顯広〕仁安2・10・25/〔〔兵 範〕同2・10・26〕				
	下毛野敦国〔-〕	在：〔厚国〕につくる。〔顯広〕仁安 2・10・25/〔〔兵範〕同2・10・26/〔 「左番長」とあり。〔〔兵範〕同2・11・ 10〕				
	中臣季近〔-〕	在：藤原基房隨身。〔山樵〕「顯広」 仁安2・4・30/藤原基房隨身か。 〔〔兵範〕同2・11・27〕				
	拍清光〔-〕	在：拍光行嫡子。「光清とするは誤 りか。光行より諸会衆頭職を相伝す る。〔平道〕3422〕				
仁安3年(1168)	拍行時〔-〕	在：〔〔樂所〕〕	玉手清貞〔-〕	在：〔〔樂所〕〕	下毛野春長〔-〕	在：〔高倉院御即位記〕
	大神是光〔-〕	在：〔〔樂所〕〕	三宅正光〔-〕	在：〔〔樂所〕〕/〔〔兵範〕仁安3・4・ 13〕	下毛野敦直〔-〕	在：誤りあるか。〔高倉院御即位 記〕
	拍光久〔-〕	在：〔〔樂所〕〕	豊原為持〔-〕	在：「為茂」につくる。〔〔樂所〕〕		
	拍光行〔-〕	在：〔〔樂所〕〕	玉手宗清〔-〕	在：〔〔樂所〕〕		
	清原種方〔-〕	在：〔〔樂所〕〕	玉手近清〔-〕	在：〔〔樂所〕〕		

拍光勘〔一〕	在：〔築所〕	安部季遠〔一〕	在：〔築所〕		
拍行近〔一〕	在：〔築所〕	紀為安〔一〕	在：「為保」につくる。〔築所〕/〔兵範〕仁安3・4・13		
拍光景〔一〕	在：〔築所〕	〔姓不詳〕近秀〔一〕	在：〔築所〕		
小部清近〔一〕	在：〔築所〕	尾張則兼〔一〕	在：〔築所〕		
〔姓不詳〕勘元〔一〕	在：〔築所〕	兼兼清〔一〕	在：「本家・官人」/〔兵範〕仁安3・4・13/「殿下右衛生、〔白院召給之。〕」（百鍊抄）同3・4・18/藤原春房隨身。（愚昧）同3・4・18		
豊原公秀〔一〕	在：〔築所〕	兼頼文〔一〕	在：「院右衛生」/〔院後白河上皇。〕（愚昧）仁安4・3・15/「院官人」/〔兵範〕同3・4・13/「院右衛生」（百鍊抄）同3・4・18/「院院」。（愚昧）同3・4・18/〔兵範〕同3・8・27		
〔姓不詳〕則正〔一〕	在：〔築所〕	兼兼任〔一〕	在：後白河上皇隨身。（〔兵範〕仁安3・4・3/後白河上皇隨身、「院右衛生」同3・4・18		
大神光茂〔一〕	在：〔築所〕	兼兼仲〔一〕	在：藤原忠雅隨身也。（〔兵範〕仁安3・4・13/雑色衆。（在：〔兵範〕同3・8・25）		
小部元清〔一〕	在：〔築所〕	三宅守正〔一〕	在：〔兵範〕仁安3・4・13		
拍行元〔一〕	在：〔築所〕	兼兼方〔一〕	在：〔兵範〕仁安3・8・25		
紀重延〔一〕	在：〔築所〕	兼兼成〔一〕	在：隨身。（〔兵範〕仁安3・8・23/人長。（〔兵範〕「愚昧」同11・16/「左近衛生」。（〔兵範〕同3・12・16）		
坂上行兼〔一〕	在：〔築所〕	下毛野諸武〔一〕	在：「師武」につくる。（洞院「仁安三年二月」）		
拍則房〔一〕	任：左近衛生に任ず。拍則近男。（〔築所〕）				
拍利光	任：左近衛生に任ず。拍光行三男。（〔築所〕）				
兼兼國〔一〕	在：後白河上皇隨身。（〔愚昧〕仁安同3・4・13/「院左衛生」。（〔百鍊抄〕同3・4・18）				

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
	中臣季近〔－〕	在：「本家官人。藤原基房隨身か。〔兵範〕仁安3・4・13/殿下左府生。〔百鍊抄〕同3・4・18/藤原基房隨身か。〔愚昧〕同3・4・18)				
	下毛野敷経〔－〕	在：「高倉院御即位記」/藤原経宗隨身か。〔兵範〕仁安3・4・13)				
	清原助光〔－〕	在：〔兵範〕仁安3・4・13)				
	下毛野武成〔－〕	在：雑色長。〔兵範〕仁安3・8・23)				
嘉応元年(1169)	秦兼成〔－〕	在：入長。〔兵範〕嘉応1・1・20/入長。〔左近将曹〕。〔兵範〕同1・4・25/入長。〔左近府生〕。〔兵範〕同1・11・21)	秦近文〔－〕	在：後白河上皇隨身。〔兵範〕嘉応1・3・13)		
	秦兼国〔－〕	在：後白河上皇隨身。〔兵範〕嘉応1・3・13/後白河上皇隨身に任ず。右近将曹に任ず。〔兵範〕嘉応1・6・7)	秦兼清〔－〕	在：藤原基房隨身。〔兵範〕嘉応1・3・13)		
	中臣季近〔－〕	在：藤原基房隨身。「未近」につくる。〔兵範〕嘉応1・3・13)	秦頼文〔－〕	在：「院右府生上。〔兵範〕嘉応1・4・20/後白河上皇隨身に任ず。左府生に転任。〔兵範〕同1・6・7/後白河上皇隨身。〔落飾〕同1・6・17)		
			中臣近武〔－〕	任：後白河上皇隨身に任ず。父重近の将曹を辭し、男近武の右府生の申しにより、左近番長より右近府生に任ず。〔兵範〕嘉応1・6・7/後白河上皇隨身。〔落飾〕同1・6・17)		
嘉応2年(1170)	大神是光〔－〕	在：〔梁所〕]	秦兼仲〔－〕	在：〔愚昧〕嘉応1・3・13)		
	拍光久〔－〕	在：〔梁所〕]	玉手清貞〔－〕	在：承安2年、死去。〔梁所〕]		
	拍光行〔－〕	在：〔梁所〕]	三宅正光〔－〕	在：〔梁所〕]		
	清原種方〔－〕	在：〔梁所〕]	豊原為持〔－〕	在：「為茂」につくる。〔梁所〕]		
	拍光助〔－〕	在：〔梁所〕]	玉手宗清〔－〕	在：〔梁所〕]		
	拍行近〔－〕	在：〔梁所〕]	玉手近清〔－〕	在：〔梁所〕]		
	拍光景〔－〕	在：〔梁所〕]	安部季遠〔－〕	在：〔梁所〕]		
	小部清近〔－〕	在：〔梁所〕]	紀為安〔－〕	在：「為保」につくる。治承元年に死去。〔梁所〕]		
			(姓不詳)近秀〔－〕	在：〔梁所〕]		

	(姓不詳) 助元 〔-〕	在：〔梁所〕	尾張則兼〔-〕	在：〔梁所〕		
	豊原公秀〔-〕	在：〔梁所〕				
	(姓不詳) 則正 〔-〕	在：承安4年、死去。〔梁所〕				
	大神光茂〔-〕	在：〔梁所〕				
	小部元清〔-〕	在：〔梁所〕				
	狛行元〔-〕	在：承安4年、死去。〔梁所〕				
	紀重延〔-〕	在：〔梁所〕				
	坂上行兼〔-〕	在：〔梁所〕				
	狛則房〔-〕	在：〔梁所〕				
	狛利光	在：〔梁所〕				
	秦頼文〔-〕	在：〔兵範]嘉応2・4・10〕				
	秦兼任〔-〕	在：〔同上〕				
	秦兼清〔-〕	在：〔兵範]嘉応2・4・10/後白河上皇隨身。〔兵範]同2・4・19〕				
	中臣近武〔-〕	在：〔兵範]嘉応2・4・10〕				
	下毛野敦景〔-〕	在：〔兵範]嘉応2・4・10/後白河上皇隨身。〔番生原景]は誤りか。〔兵範]同2・4・19〕				
	下毛野諸武〔-〕	在：〔兵範]嘉応2・4・10〕				
	下毛野武成〔-〕	在：雑色長。〔兵範]嘉応2・4・29)/雑色長。衛府長。〔玉葉]同2・4・23〕				
承安元年(1171)	大神是光〔-〕	故：この年死去。〔梁所〕			大神光茂〔-〕	在：左近か。〔玉葉]承安1・4・12〕
	下毛野諸武〔-〕	在：藤朝。〔玉葉]承安1・1・19)/藤朝。〔右近府生]。〔師武]につくる。〔愚昧]同1・1・19〕				
承安2年(1172)	中臣季近〔-〕	在：衛府長。〔玉葉]承安2・7・21〕	豊原為持〔-〕	在：右近将曹転任を申す。〔為茂]につくる。〔角魯]別録巻第一「承安二年春除目申文目録」)	秦兼清〔-〕	在：藤原基房隨身か。〔玉葉]承安2・1・1〕
	狛光久〔-〕	在：〔功]により雅楽頭遷任を申す。〔魚魯]別録巻第一「承安二年春除目申文目録」)			秦頼文〔-〕	在：〔大将隨身]。〔玉葉]承安2・4・23〕
	狛行久〔-〕	在：府奏により将曹転任を申す。〔魚魯]別録巻第一「承安二年春除目申文目録」)				

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
承安4年(1174)					大神光茂(一)	在：〔玉葉〕承安4・7・28)
					下毛野教経(一)	在：〔牧恒〕につくる。〔吉記〕承安4・8・6)
安元元年(1175)	秦兼宗(一)	在：〔玉葉〕安元1・3・7)				
安元2年(1176)	下毛野教助(一)	在：〔吉記〕、〔顯広〕安元2・4・22)	下毛野教景(一)	在：〔殿下右府生(殿下藤原基房)〕。〔吉記〕安元2・4・22)/〔顯広〕同2・4・22)	下毛野教経(一)	在：御馬乗。〔玉葉〕安元2・3・4)
	秦頼文(一)	在：(同上)	中臣近武(一)	在：〔吉記〕、〔顯広〕安元2・4・22)	佐伯近文(一)	在：藤原師長隨身か。〔吉記〕安元2・4・27)
	秦兼清(一)	在：〔吉記〕安元2・4・27)	秦兼宗(一)	在：(同上)		
治承元年(1177)	(姓不詳)近重(一)	在：〔山槐〕治承1・12・17)	下毛野教助(一)	在：〔教佐〕につくる。〔顯広〕治承1・4・16)/〔教佐〕につくる。〔後白河上皇隨身か。〔山槐〕同1・12・17)	秦頼文(一)	在：〔愚昧〕治承1・3・24)/〔顯広〕同1・4・16)/人長。〔人長卿文、骨法不受果、登止顔別藤兼〕と詳す。〔愚昧〕同1・11・24)
	豊原公秀(一)	在：(同上)	秦兼宗(一)	在：〔顯広〕治承1・4・16)/隨身。〔愚昧〕同1・8・7)/後白河上皇隨身か。〔山槐〕同1・12・17)	中臣近武(一)	在：重服。〔愚昧〕治承1・3・24)/隨身。〔愚昧〕同1・9・10)
	安倍季遠(一)	在：(同上)	紀為安(一)	在：〔為保〕につくる。〔山槐〕治承1・12・17)	秦兼清(一)	在：〔後院。〔愚昧〕治承1・3・24)/〔顯広〕同1・4・16)
	(姓不詳)行光(一)	在：(同上)			平宗清(一)	在：〔山槐〕治承1・12・17)
					(姓不詳)近清(一)	在：(同上)
					豊原為成(一)	在：(同上)
治承2年(1178)	秦頼文(一)	在：〔山槐〕治承2・5・9)/〔玉葉〕同2・10・17)/特曹に任ず。〔玉葉〕同2・10・29)	下毛野教助(一)	在：〔教佐〕につくる。〔山槐〕治承2・5・9)		
	大石久直(一)	在：〔玉葉〕治承2・10・29)	秦兼宗(一)	在：(同上)		
	大石季景(一)	在：(同上)	秦兼仲(一)	在：(同上)		
	紀重延(一)	在：(同上)	秦教頼(一)	在：(同上)		
	大神是弘(一)	在：(同上)	秦兼清(一)	在：藤原基房隨身。〔山槐〕治承2・6・19)		
	豊原公秀(一)	在：(同上)	下毛野教兼(一)	在：〔教廉〕の誤りか。藤原基房隨身。〔同上)		
	清原助成(一)	在：(同上)	三宅守正(一)	在：〔盛正〕につくる。〔玉葉〕治承2・10・29)		

	豊原公久〔－〕	在：(同上)	玉手宗清〔－〕	在：(同上)		
	物部安国〔－〕	在：(同上)	玉手近清〔－〕	在：(同上)		
	秦重次〔－〕	在：(同上)	紀為安〔－〕	在：(同上)		
	矢田誠吉〔－〕	在：(同上)	下毛野武幸〔－〕	在：一貫。(同上)		
	藤井近安〔－〕	在：(同上)	豊原行光〔－〕	在：或いは「行元」か。(同上)		
	建部国安〔－〕	在：(同上)	尾張則兼〔－〕	在：(同上)		
	秦末次〔－〕	在：(同上)	尾張兼遠〔－〕	在：(同上)		
	建部安茂〔－〕	在：(同上)	玉手定清〔－〕	在：〔玉業〕治承2・11・2)		
	大神光茂〔－〕	在：(同上)	豊原行元〔－〕	在：(同上)		
	尾張兼助〔－〕	在：(同上)	下毛野教景〔－〕	在：〔玉業〕治承2・12・10)		
	建部成安〔－〕	在：(同上)				
	紀光末〔－〕	在：〔紀光季〕と同一か。(同上)				
	大神武吉〔－〕	在：(同上)				
	藤井国正〔－〕	在：(同上)				
	紀有行〔－〕	在：(同上)				
	大原武次〔－〕	在：(同上)				
	春日共枝〔－〕	在：(同上)				
	清原有里〔－〕	在：(同上)				
	下毛野諸武〔－〕	在：〔師武〕につくる。〔玉業〕治承2・10・20/藤原基房隨身。〔玉業〕・〔顯広〕同2・10・29)				
治承3年(1179)	下毛野諸武〔－〕	在：藤原基房隨身。(〔山槐〕治承3・3・3/藤原師長隨身。(〔山槐〕同2・3・23)	安部季遠〔－〕	在：〔末遠〕につくる。(〔樂所〕)		
	下毛野氏安〔－〕	在：〔武安〕の誤りか。(〔山槐〕治承3・4・21)	下毛野教景〔－〕	在：藤原基房隨身。(〔山槐〕治承3・3・3/藤原師長隨身。(〔山槐〕同3・3・24/左府生。(〔山槐〕同3・4・21)		
	大石久直〔－〕	在：序鎮。(〔山槐〕治承3・2・7)/大石親直子。(〔山槐〕治承3・4・26)	秦兼宗〔－〕	在：〔藏候院者上。(〔山槐〕治承3・3・24)/左府生。(〔山槐〕同3・4・21)		
	大石季景〔－〕	在：〔山槐〕治承3・10・25)	下毛野教助〔－〕	在：〔教佐〕につくる。(〔山槐〕治承3・4・21)		

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
治承4年(1180)		在：「兼衡」につくる。藤原基通隨身。〔山槐〕治承4・3・4/高倉上皇隨身。〔山槐〕同4・4・15/左近府生中臣近武を右近將曹に任すにより、右近府生兼平、左近府生に転任する。〔山槐〕同4・4・27/右府生上。〔山槐〕同4・4・29/院御隨身上。〔玉葉〕同4・5・7/高倉上皇隨身を停め、本府に戻る。〔山槐〕同4・7・29)				
兼平〔-〕			安部季遠〔-〕	在：「末遠」につくる。(〔樂所1〕)	佐伯国方〔-〕	在：「国賢」につくる。〔山槐〕治承4・10・7)
佐伯近文〔-〕	在：〔山槐〕治承4・4・15)		中臣頼文〔-〕	在：名に誤りあるか。(〔山槐〕治承4・3・4)		
中臣近武〔-〕	在：藤原基通隨身。〔山槐〕治承4・3・4/高倉上皇隨身。〔左府生上。〕〔山槐〕同4・4・15/右近衛府生上。より右近將曹に任す。〔山槐〕同4・4・21/左府生上より「右將曹」に任じるの記述。〔山槐〕同4・4・27)		下毛野敦重〔-〕	在：高倉上皇隨身。(〔山槐〕治承4・4・15)		
兼兼仲〔-〕	在：〔山槐〕治承4・4・15/右近府生か。(〔玉葉〕同4・5・6)		下毛野敦助〔-〕	在：〔山槐〕治承4・4・15)		
			下毛野敦景〔-〕	在：〔山槐〕治承4・4・15/高倉上皇隨身。〔山槐〕治承4・4・27/高倉上皇隨身を停め、本府に戻る。〔山槐〕同4・7・29)		
			下毛野武事〔-〕	在：〔玉葉〕治承4・5・6)		
			兼重房〔-〕	在：「本府官人」。(〔玉葉〕治承4・5・4/〔玉葉〕同4・5・6)		
			三宅守正〔-〕	在：〔玉葉〕治承4・5・6)		
			豊原行元〔-〕	在：(同上)		
			安部季遠〔-〕	在：(同上)		
寛和元年(1181)	大石久直〔-〕	在：將曹転任を申す。(〔吉記〕寛和1・3・24)	(姓不詳)正保〔-〕	在：〔玉葉〕寛和1・5・2)		
	下毛野敦助〔-〕	在：〔吉記〕寛和1・4・16)	大神宗賢〔-〕	在：「左近將監」転任を申す。(〔吉記〕寛和1・3・24)		
	下毛野武安〔-〕	在：「殿下左府生」(殿下藤原基通)。(〔吉記〕寛和1・11・3)	三宅守正〔-〕	在：將曹転任を申す。(〔吉記〕寛和1・3・24)		
寿永2年(1183)			安部季遠〔-〕	在：「末遠」につくる。(〔樂所1〕)		

元暦元年(1184)	大石久直〔-〕	在：左近守頭。〔義経〕元暦1・7・28/〔山樵〕同1・8・22/左近官入。〔愚昧〕同1・11・21)	安部季遠〔-〕	在：「末遠」につくる。〔兼所1〕	下毛野緒武〔-〕	在：藤原基通隨身。「師武」につくる。〔玉葉〕元暦1・12・16)
			紀為安〔-〕	在：「為保」につくる。〔山樵〕元暦1・8・22)	下毛野敦康〔-〕	在：「後院」。「玉葉」元暦1・12・16/「厚次」2。翌年死去するか。〔玉葉〕文治2・5・21)
			三宅守正〔-〕	在：「盛正」につくる。〔同上〕	兼兼平〔-〕	在：「後院」。「玉葉」元暦1・12・16)
			下毛野忠武〔-〕	在：「本府」。「玉葉」元暦1・12・16/右近府生。〔玉葉〕同1・12・21/左近府生。〔玉葉〕同1・6・21)	下毛野武守〔-〕	在：藤原基通隨身。「武盛」につくる。〔玉葉〕元暦1・12・16)
					中臣武友〔-〕	在：「後院」。「玉葉」元暦1・12・16)
文治元年(1185)	下毛野武安〔-〕	在：〔山樵〕文治1・8・26)	下毛野敦重〔-〕	在：〔玉葉〕文治1・6・21)		
	兼兼平〔-〕	在：〔同上〕	兼兼仲〔-〕	在：〔同上〕/「恒方子」。「文治治」)		
	中臣武友〔-〕	在：〔玉葉〕文治1・6・21)	佐伯近文〔-〕	在：〔同上〕		
	佐伯国方〔-〕	在：〔同上〕	下毛野武守〔-〕	在：「武盛」につくる。〔山樵〕文治1・8・27/「武盛」につくる。「武成子」。「文治治」)		
	下毛野敦澄〔-〕	在：「厚澄」につくる。〔玉葉〕文治1・6・21/「敦忠子」。「文治治」)				
文治2年(1186)						
	兼兼平〔-〕	在：〔玉葉〕文治2・3・16)	兼兼次〔-〕	在：藤原兼実隨身。兼兼頼子。「本後院右番長」。「玉葉」文治2・3・16/「前取」を放るに「自院兼進之者也。仍兼為兼忠殿前所賜」とあり。〔玉葉〕同2・4・2)	中臣武友〔-〕	在：御府長。〔玉葉〕文治2・4・28)
	下毛野忠武〔-〕	在：藤原兼実隨身。〔玉葉〕文治2・3・16/上臈。〔玉葉〕同2・3・28/御府長。〔玉葉〕同3・7・25)				
	文治3年(1187)	在：〔玉葉〕文治3・1・3/藤原兼実隨身。〔玉葉〕同3・5・9)				
	文治4年(1188)				中臣武友〔-〕	在：後白河上皇隨身か。〔玉葉〕文治4・1・29)
文治5年(1189)					兼兼澄〔-〕	任：兼春補任により超越すべからずにより、府生に任ず。隨身。〔愚昧〕文治5・7・10)
	下毛野忠武〔-〕	在：「余左府生」(余藤原兼実)。「玉葉」文治5・3・16/藤原兼実隨身。〔玉葉〕同5・10・30/雑色長。〔玉葉〕同5・12・11)			兼兼清〔-〕	在：〔愚昧〕文治5・9・4)

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
建久元年(1190)		在：御隨身。「八条院御紀伊國三上庄者兼平請弟相広地也」。地頭豊嶋有経の対草を鎌倉方へ訴え申すに对し、活物少汰すへきの下文を仰すことあり。〔吾妻〕建久1・5・29/召次長。〔愚昧〕同1・10・19/右府生。源頼朝の隨身とせんがため、院の仰せにより番長に任ず。〔吾妻〕同1・11・26/左近番長に任ず。〔百鍊抄〕同1・12・1				
	梶藤貞弘〔-〕	在：下願隨身に任ず。(同上)			兼兼次〔-〕	在：藤原兼実隨身。(同上)
建久2年(1191)	下毛野忠武〔-〕	在：〔玉葉〕建久2・4・20/衛府長。〔余右府生〕〔余藤原兼実〕。〔玉葉〕同2・6・25)	兼兼次〔-〕	在：〔玉葉〕建久2・4・20/衛府長。〔余右府生〕〔余藤原兼実〕。〔玉葉〕同2・6・25/雑色長。〔玉葉〕同2・8・25)	中臣武友〔-〕	在：〔玉葉〕建久2・4・20)
	兼兼兼〔-〕	在：御隨身。所領がため、紀伊國三上庄地頭豊嶋有経の管えを鎌倉方へ訴え申し、源頼朝の任大將以来の功により股む。〔吾妻〕建久2・10・2)			(姓不詳)公秀〔-〕	在：〔吾妻〕建久2・11・22)
					三宅守正〔-〕	在：〔吾妻〕建久2・11・22)
建久3年(1192)	下毛野忠武〔-〕	在：〔余左府生〕〔余藤原兼実〕。〔玉葉〕建久3・8・19)				
建久4年(1193)	下毛野忠武〔-〕	在：藤原兼実隨身。〔玉葉〕建久4・1・1)				
建久5年(1194)	下毛野忠武〔-〕	在：〔玉葉〕建久5・4・17/殿下左府生。〔百鍊抄〕同5・4・18/雑色長。〔玉葉〕同5・7・19)	中臣武友〔-〕	在：〔玉葉〕建久5・4・17)		
	兼兼仲〔-〕	在：〔玉葉〕建久5・4・17)	兼兼隆〔-〕	在：(同上)		
	佐伯國方〔-〕	在：(同上)				
	兼兼直〔-〕	在：(同上)				
	兼兼景〔-〕	在：(同上)				
	兼兼景〔-〕	在：(同上)				
建久6年(1195)	清原助直〔-〕	在：〔統親〕東大寺供養事建久記)	安倍季国〔-〕	在：〔統親〕東大寺供養事建久記)	下毛野忠武〔-〕	在：衛府長。〔玉葉〕建久6・1・8)
	大石久景〔-〕	在：〔統親〕東大寺供養事建久記)			中臣武友〔-〕	在：藤原良経隨身。〔三長〕建久6・11・15)

建久7年(1196)	下毛野忠武〔一〕	在：「殿下左侍生」。(『百鍊抄』建久7・4・14)/(『明月』同7・4・24)	秦頼武〔一〕	在：殿下右侍生。同姓同名の人物が左近衛長にあり。(『百鍊抄』建久7・4・14)/(『殿下右』。(『明月』同7・4・23)	秦行弘〔一〕	在：「殿下侍生」(殿下藤原兼実)。(『百鍊抄』建久7・4・14)
	藤原光満 〔正六位上〕	在：「被兼任諸国掾」ことを望む。(『大聞』第五「諸衛兼国」)			下毛野敦遠〔一〕	在：「本府」。(『明月』建久7・4・23)
	中臣武友〔一〕	在：「左大將侍生」(左大將九条良経)。(『百鍊抄』建久7・4・14)/(『明月』同3・4・24)			秦兼仲〔一〕	在：「本府」。(同上)
					〔姓不詳〕近文 〔一〕	在：「本府」。(同上)
					佐伯国方〔一〕	在：「本府」。(同上)
建久8年(1197)					秦兼直〔一〕	在：「本府」。(同上)
	下毛野武守〔一〕	在：「雑色長左侍生」。(『猪股』建久8・2・2・10・13)			中原俊光〔一〕	在：「一員隨身」。(『猪股』建久8・2・2)
建久9年(1198)						
	秦兼直〔一〕	在：「雑色長左侍生」。(『猪股』建久9・1・19)/(後鳥羽上皇隨身か。(『三長』同9・1・21)/後鳥羽上皇隨身。(『猪股』同9・3・27)/院左侍生」。(『百鍊抄』同9・4・18)/左近衛侍卿射流手結・真手結に載る。(『猪股』同9・5・3・5・5)/(『建久』)	秦頼秀〔一〕	在：「院右侍生」。(『百鍊抄』建久9・4・18)	秦兼直〔一〕	在：「明月」建久9・1・19)
	豊原忠秋〔一〕	在：同日将曹に任じるか。(『明月』建久9・1・19)	秦頼武〔一〕	在：「依武」につくる。(『明月』建久9・1・19)/後鳥羽上皇隨身か。「頼氏」につくる。(『三長』建久9・1・21)	紀重延〔一〕	在：仮隨身。(『猪股』建久9・4・17)
	下毛野武守〔一〕	在：「雑色長左侍生」。(『猪股』建久9・1・8)/もと藤原基通隨身。左侍生たるも基通の仰せにより番長とする。(『猪股』同9・1・19)/藤原家実の隨身とするため番長に任ず。(『明月』同9・1・23)	下毛野師武子 〔一〕	在：下毛野武守を藤原家実の隨身とするために番長に任じ、その暮として左近に渡る。(『明月』建久9・1・23)		
	大石久景〔一〕	在：左近侍頭。(『猪股』建久9・1・28)/左近衛侍卿射流手結・真手結に載る。(『猪股』同9・5・3・5・5)	下毛野武宗〔一〕	任：下毛野師武子、右侍生より左侍生に渡るにより、武宗を右侍生に任じるか。下毛野武女子。(同上)		
	下毛野久武〔一〕	在：「殿下左侍生」(殿下藤原基通)。(『猪股』建久9・3・27)/左近衛侍卿射流手結・真手結に載る。(『猪股』同9・5・3・5・5)	秦兼仲〔一〕	在：「(移能)後鳥羽院甲」人長。(『猪股』建久9・4・17)		
	中臣恒元〔一〕	在：左近衛侍卿射流手結・真手結に載る。(『猪股』同9・5・3・5・5)	中原俊光〔一〕	在：「三中記」では「俊光」とする。「師直記」では「俊元」。(『移能』後鳥羽院甲)		

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
	中臣武友(一)	在：左近衛府騎射荒手結・真手結に載る。(『猪隈』同9・5・3、5・5)				
	下毛野助藤(一)	在：左近衛府騎射荒手結・真手結に載る。(『猪隈』同9・5・3、5・5)				
	清原助直(一)	在：〔移能〕後鳥羽院甲)左近衛府騎射荒手結・真手結に載る。(『猪隈』同9・5・3、5・5)				
	拍時実(一)	在：左近衛府騎射荒手結・真手結に載る。(『猪隈』同9・5・3、5・5)				
	中臣武恒(一)	在：左近衛府騎射荒手結・真手結に載る。(『猪隈』同9・5・3、5・5)				
	下毛野敦綱(一)	在：左近衛府騎射荒手結・真手結に載る。(『猪隈』同9・5・3、5・5)				
	佐伯国方(一)	在：隨身。「自本府進差文」一具。(『猪隈』建久9・1・19)〔将曹〕(三三良)建久9・1・19)〔移能〕後鳥羽院甲)左近衛府騎射荒手結・真手結に載る。(『猪隈』同9・5・3、5・5)				
	大神光武(一)	在：左近衛府騎射荒手結・真手結に載る。(『猪隈』建久9・5・3、5・5)				
	下毛野忠武(一)	在：〔移能〕後鳥羽院甲)				
正治元年(1199)	大石久景(一)	在：〔『猪隈』正治1・1・18)左近衛府騎射荒手結に載る。(『猪隈』同9・5・3)	兼中(一)	在：源通親隨身。(『猪隈』正治1・5・9)	下毛野助直(一)	在：「府生」。(『明月』正治1・3・11)
	兼綱武(一)	在：「院上」(『明月』正治1・4・29)左近衛府騎射荒手結に載る。(『猪隈』同9・5・3)〔玉葉』同1・5・9)〔玉葉』同1・11・27)	下毛野敦近(一)	在：(『猪隈』正治1・5・9)	下毛野武守(一)	在：「府生」。藤原家実隨身か。(『猪隈』正治1・6・25)
	中臣武友(一)	在：〔『明月』正治1・4・29)左近衛府騎射荒手結に載る。(『猪隈』同9・5・3)〔玉葉』同1・11・27)	下毛野武宗(一)	在：「右府生」。鎌色基。藤原基通隨身。(『猪隈』正治1・7・9、9・28)		
	下毛野助藤(一)	在：左近衛府騎射荒手結に載る。(『猪隈』正治9・5・3)				
	清原助直(一)	在：左近衛府騎射荒手結に載る。(同上)				
	拍時実(一)	在：左近衛府騎射荒手結に載る。(同上)				

	中臣武恒〔一〕 (同上)	在：左近衛府騎射荒手結に載る。			
	下毛野敦綱〔一〕 (同上)	在：左近衛府騎射荒手結に載る。			
	佐伯國方〔一〕 (同上)	在：左近衛府騎射荒手結に載る。			
	大神光武〔一〕 (同上)	在：左近衛府騎射荒手結に載る。			
	兼兼直〔一〕 (同上)	在：左近衛府騎射荒手結に載る。			
	下毛野久武〔一〕	在：藤原基通隨身。〔猪隈〕正治1・5・9/「番長」藤原家実隨身か。〔猪隈〕同1・6・25)			
正治2年(1200)	兼兼武〔一〕	在：〔猪隈〕正治2・1・10/後鳥羽上皇隨身。「依武」につくる。〔明月〕〔猪隈〕同2・2・3/後鳥羽上皇隨身。〔猪隈〕同2・5・9/人長。後鳥羽上皇隨身。「右近府主」。〔猪隈〕同2・11・21)	中臣武友〔一〕	在：〔猪隈〕正治2・1・10/後鳥羽上皇隨身。〔明月〕〔猪隈〕同2・2・3)	大石久景〔一〕 18)
	下毛野武宗〔一〕	在：〔猪隈〕正治2・1・10/藤原基通隨身。〔明月〕〔猪隈〕同2・2・3)	下毛野種武〔一〕	在：藤原基通隨身。〔明月〕〔猪隈〕正治2・2・3)	下毛野武守〔一〕
	下毛野恒元〔一〕	在：〔明月〕正治2・2・3/「府」。	下毛野助信〔一〕	在：〔猪隈〕正治2・1・10/〔明月〕同2・2・3・4・24/藤原良経隨身。〔猪隈〕同2・5・9)	
	兼兼直〔一〕	在：〔猪隈〕正治2・1・10/〔猪隈〕同2・5・9)	下毛野敦遠〔一〕	在：〔明月〕正治2・2・3/「府」。	
			下毛野敦文〔一〕	在：〔明月〕正治2・2・3/「府」人。	
			下毛野敦近〔一〕	在：〔明月〕正治2・2・3・4・24)	
			兼兼仲〔一〕	在：「姉七句」。〔猪隈〕正治2・5・9)	
	建仁元年(1201)	(姓不明)重頼〔一〕	兼兼直〔一〕	在：人長。満通親隨身。〔猪隈〕建仁・11・24)	下毛野武守〔一〕
		下毛野武宗〔一〕			大石久景〔一〕
	建仁2年(1202)	下毛野忠武〔一〕	中臣武友〔一〕	在：〔明月〕建仁2・3・28/「院」。〔明月〕同2・4・23/「院院」。〔猪隈〕同2・3・26)	下毛野武守〔一〕

	秦兼直〔-〕	在：「大相左府生。」(同上)				
承元2年(1208)	下毛野武守〔-〕	在：藤原家実上臈隨身。〔「猪腰」承元2・11・27〕	下毛野教文〔-〕	在：〔「猪腰」承元2・1・2〕		
承元3年(1209)	下毛野久武〔-〕	在：藤原家実隨身。〔左府生。〕後鳥羽上皇の賀茂祭見物において、久武・種武を遣わすべく仰せあり。〔「猪腰」承元3・4・19〕藤原家実隨身。〔右府生。〕後鳥羽上皇より、久武所持の轡を遣わすべく仰せあり。〔「猪腰」同3・6・27〕				
承元4年(1210)	秦兼行〔-〕	在：人長。〔「玉蕊」承元4・3・5〕			下毛野武景〔-〕	在：もと番長か。土御門上皇隨身下臈一燈。夜前に木府官人に任じ、25日右近將曹に在じるところ「天下藤耳」。〔「讓位」承元4・11・25〕
建暦元年(1211)	拍季真〔-〕	任：2月、左近府生に任ず。拍季真(マヅ)子。承元3年死去。〔「樂所」〕				
	秦頼武〔-〕	在：後鳥羽上皇隨身。〔「猪腰」建暦1・1・22〕				
建暦2年(1212)			秦頼次〔-〕	在：〔「明月」建暦2・4・21〕後鳥羽上皇隨身。〔「玉蕊」同2・4・21〕	秦兼基〔-〕	在：〔「本番長」。「明月」建暦2・7・2〕隨身。〔「玉蕊」同2・10・28〕
建保元年(1213)	大神光茂〔-〕	在：11月、死去。〔「樂所」〕	秦頼武〔-〕	在：〔「院右府生」。「百鍊抄」建保1・4・14〕		
建保2年(1214)			秦文清〔-〕	在：院右府生。(同上)		
	秦行弘〔-〕	在：〔「移徙」後鳥羽院丁上〕	佐伯国文〔-〕	在：〔「移徙」後鳥羽院丁上〕	秦久清〔-〕	在：〔「後鳥羽」建保2・4・9〕後鳥羽上皇隨身か。賀茂杜司氏入殿助の勝負を見る。〔「後鳥羽」同2・4・28〕
	中臣か近安〔-〕	在：(同上)	佐伯武文〔-〕	任：後鳥羽上皇移徙における黄牛を牽く役のために府生に任ず。〔「府官人」。「移徙」後鳥羽院丁上〕		
建保3年(1215)			秦久清〔-〕	在：人長。〔「宮寺」弘神事次第〕		
建保4年(1216)	大神通弘〔-〕	任：4月、左近府生に任ず。〔「樂所」〕			秦武澄〔-〕	在：〔「著聞」馬雲第十四・三六八〕
建保5年(1217)	拍近俊〔-〕	故：この年死去。〔「樂所」〕				在：源実朝任大將拝賀のため鶴岡八幡宮参拜行列の一員となる。〔「告衆」建保6・6・27〕
建保6年(1218)					拍盛光〔-〕	在：源実朝任右大臣拝賀のため鶴岡八幡宮参拜行列の一員となる。〔「吾妻」承元1・1・27〕
承久元年(1219)					拍盛光〔-〕	

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
承久2年(1220)	兼康朝(一)	在：「膳射射手習礼。〔玉蕊〕承久2・3・13」	兼宗嗣(一)	在：「膳射射手習礼。〔玉蕊〕承久2・3・13」		
	兼実茂(一)	在：「膳射射手習礼。〔同上〕」	佐伯経長(一)	在：「膳射射手習礼。〔同上〕」		
	相庭實隆(一)	在：「膳射射手習礼。〔同上〕」	大石言家(一)	在：「膳射射手習礼。〔同上〕」		
	下毛野種武(一)	在：「関白左府生〔関白藤原家実〕。〔玉蕊〕承久2・4・14」	下毛野致久(一)	在：「院右府生」。〔玉蕊〕承久2・4・14」		
	佐伯武文(一)	在：〔同上〕	佐伯国文(一)	在：〔同上〕/〔玉蕊〕同2・5・9」		
承久3年(1221)	兼種文(一)	在：「衛府長。〔玉蕊〕承久3・1・1、1・17」				
嘉禄元年(1225)	拍定光(一)	在：「貞光」につくる。任将曹を申請する。〔丸中〕257」			兼武澄(一)	在：「本府。〔明月〕嘉禄1・4・4)/「本府府生。〔明月〕同1・4・19」
					兼兼廉(一)	在：「本府。〔同上〕/「本府府生。〔同上〕」
安貞元年(1227)	下毛野武用(一)	在：「故左府御隨身(故左府藤原公継)」、「近習第一者」。「武茂」につくる。〔明月〕安貞1・11・29)/藤原兼経隨身。雑色長。〔武茂〕につくる。〔同属〕嘉禄2・1・1」			兼久貞(一)	在：「藤原教実隨身。〔民経〕安貞1・4・14)/〔明月〕同1・12・14」
安貞2年(1228)	兼久員(一)	在：「衛府長。〔玉蕊〕安貞2・3・16」				
寛喜元年(1229)			兼兼友(一)	任：〔明月〕寛喜1・12・26」		
寛喜2年(1230)	兼久員(一)	在：「官人。〔明月〕寛喜2・2・23)/〔明月〕同2・2・24」	兼兼友(一)	在：「殿下府生」(殿下藤原道家)。〔明月〕寛喜2・2・11)/〔明月〕同2・2・24」	兼久貞(一)	在：「右大臣殿府生」(右大臣藤原教実)。〔明月〕寛喜2・2・11)/「府官人」(淳子息久貞。〔明月〕同2・2・25」
			兼広澄(一)	在：「府官人。当時人長」。〔明月〕寛喜2・2・11)/〔明月〕同2・2・24)/人長。〔明月〕同2・11・22」		
			中臣近光(一)	在：〔明月〕寛喜2・2・11)/〔明月〕同2・2・24」		
寛喜3年(1231)	兼久清(一)	在：「久員改い、は久貞の誤りか。〔明月〕寛喜3・2・12)/藤原道家隨身。〔民経〕同3・2・12)/右次長。〔左近特監〕。〔民経〕同3・4・8」	兼兼友(一)	在：「藤原道家隨身。〔民経〕「明月」(〔民経〕同3・4・17」	下毛野武用(一)	在：「武茂」につくる。藤原兼経隨身。〔民経〕寛喜3・5・19」
	兼久員(一)	在：「御隨身。〔本〕。〔明月〕寛喜3・7・6」	兼頼種(一)	在：〔明月〕寛喜3・7・6)/〔民経〕同3・7・12」		
	兼広澄(一)	在：人長。〔民経〕寛喜3・4・17)/〔明月〕同3・8・15」	兼武延(一)	在：〔民経〕寛喜3・7・12)/「武信」につくる。〔明月〕同3・7・13」		

貞永元年(1232)	大神連弘(一)	在：大神屋敷二男。(「築所」)	(姓不詳)助繼 〔一〕	在：(「築所」)		
	柏光忠(一)	在：柏光成男。(「築所」)	(姓不詳)助茂 〔一〕	在：(「築所」)		
	大神是保(一)	在：大神屋敷三男。(「築所」)	柏時成(一)	在：柏奈前二男。龍居。(「築所」)		
	(姓不詳)近好 〔一〕	在：宗近二男。狛氏か。(「築所」)				
	柏定光(一)	在：柏清光二男。龍居。(「築所」)				
天福元年(1233)			秦武延(一)	在：在：「右召次」。(「民経」天福1・4・14)/御堀河上皇隨身。(「民経」同1・4・23)/御堀河上皇隨身。(「民経」同1・5・9)/「御車副召次」。(「明月」同1・6・22)		
嘉祐元年(1235)			秦賴峯(一)			在：御隨身。(「明月」嘉祐1・10・14)
嘉祐3年(1237)	秦兼友(一)	在：「殿下左左府生」。(「兼貴」嘉祐3・1・14)/衛府長。「殿下左府生」(「殿下藤原道家」)。(「玉蕊」同3・1・14)	秦賴種(一)	在：(「玉蕊」嘉祐3・1・2)/衛府長に任ず。(「玉蕊」同3・4・10)		在：(「玉蕊」嘉祐3・3・29)
	下毛野武用(一)	在：雑色長。「武持」につくる。(「玉蕊」嘉祐3・1・14)/衛府長。「武茂」につくる。(「玉蕊」同3・1・26)/「官人」。(「玉蕊」同3・3・5)	下毛野吉武(一)	在：「官人」。(「玉蕊」嘉祐3・3・5)	下毛野武任(一)	在：(同上)
暦仁元年(1238)	下毛野武用(一)	在：雑色長。「武茂」につくる。(「玉蕊」暦仁1・1・9)	下毛野季武(一)	在：隨身。「末武」につくる。(「玉蕊」暦仁1・3・22・4・10)		
	秦兼成(一)	在：衛府長。(「玉蕊」暦仁1・1・9)	下毛野吉武(一)	在：「能武」につくる。雑色長。(「民経」暦仁1・5・15)/雑色長。「殿下右府生」(「殿下藤原兼経」)。(「民経」同1・11・11)		
	秦兼友(一)	在：隨身。(「玉蕊」暦仁1・4・10)				
仁治3年(1242)	秦重久(一)	在：(「民経」仁治3・1・20)	石作末弘(一)	在：(「民経」仁治3・1・20)	秦久貞(一)	在：御隨身。(「資頼」仁治3・3・29)/上臈隨身。(「荒涼」仁治3・3・29)
	下毛野吉武(一)	在：雑色長。「殿下府生」(「殿藤原兼経」)。(「民経」仁治3・1・20)	秦行恒(一)	在：(同上)	秦賴峯(一)	在：御隨身。(「資頼」仁治3・3・29)/上臈隨身。(「荒涼」仁治3・3・29)
寛元2年(1244)			秦賴峯(一)	在：右近年預衆兼難死去の替として年貢に任ず。藤原良実隨身。(「妙槻」寛元2・1・18・1・20)	秦兼種(一)	在：鶴岡八幡宮馬場の儀にて駿馬乗尻を務む。(「吾妻」寛元2・8・16)
寛元3年(1245)					秦兼種(一)	在：鶴岡八幡宮馬場の儀にて駿馬乗尻を務む。(「吾妻」寛元3・8・16)

和暦(西暦)	左近衛府生	備考・出典	右近衛府生	備考・出典	左右不詳	備考・出典
寛元4年(1246)		在：後嵯峨上皇隨身。「久員弟。年頗少歟。」「元前贈白左番長。」「久清院「御脱履記(後嵯峨)/後嵯峨上皇隨身。」「(公光)寛元4・2・1、洞院「御脱履記(後嵯峨)/後嵯峨上皇隨身。」「(経俊)同4・2・16/上藤御覽にて「泛駕非無典。」「堪能。」「(為経)同4・2・17/後嵯峨上皇隨身。」「(葉黄)同4・3・2/〔葉黄〕同4・3・5/後嵯峨上皇上藤隨身。」「(葉黄)、「賀茂」同4・4・29)		在：後嵯峨上皇隨身。「元摂政大臣之時雖色長。」「武延子。年少之由。」「(公光)寛元4・2・1、洞院「御脱履記(後嵯峨)/後嵯峨上皇隨身。」「(経俊)同4・2・16/上藤御覽にて「泛駕非無典。」「堪能。」「(為経)同4・2・17/後嵯峨上皇隨身。」「(葉黄)同4・3・2/〔葉黄〕同4・3・20/後嵯峨上皇上藤隨身。」「(葉黄)、「賀茂」同4・4・29)		在：藤原実経上藤隨身か。〔葉黄〕寛元4・1・28)人長。〔殿右官人〕。〔葉黄〕同4・11・18)
	泰久則〔一〕	在：後嵯峨上皇隨身。「久員弟。年頗少歟。」「(公光)寛元4・2・1、洞院「御脱履記(後嵯峨)/後嵯峨上皇隨身。」「(経俊)同4・2・16/上藤御覽にて「泛駕非無典。」「堪能。」「(為経)同4・2・17/後嵯峨上皇隨身。」「(葉黄)同4・3・2/〔葉黄〕同4・3・5/後嵯峨上皇上藤隨身。」「(葉黄)、「賀茂」同4・4・29)	泰兼躬〔一〕	在：後嵯峨上皇隨身。〔葉黄〕同4・4・29)	泰兼友〔一〕	在：藤原実経上藤隨身か。〔葉黄〕寛元4・1・28)
					泰弘澄〔一〕	在：藤原基実隨身か。〔葉黄〕寛元4・1・28)人長。〔殿右官人〕。〔葉黄〕同4・11・18)
	宝治元年(1247)				佐伯光文〔一〕	在：「内府大將府生」。藤原基実隨身か。〔葉黄〕宝治1・5・9)
宝治元年(1247)	泰弘貞〔一〕	在：〔葉黄〕宝治1・5・9)	泰兼躬〔一〕	在：「院右府生」。後嵯峨上皇隨身か。〔葉黄〕宝治1・5・9)「左府生。」「(葉黄)同1・5・21)「左近府生。」「(産部]総子内親王)		
	下毛野兼武〔一〕	在：(同上)	泰久澄〔一〕	在：〔葉黄〕宝治1・5・9)		
	下毛野武用〔一〕	在：「武持」につくる。「左官人」。府生。藤原兼経隨身か。〔葉黄〕宝治1・1・28)「下毛野武秋文。」「殿左府生」。藤原兼経隨身か。〔葉黄〕同1・5・9)「泰久員死去の替に任将曹を望む。」「(葉黄)同1・5・21)	泰弘方〔一〕	在：〔葉黄〕宝治1・5・9)後嵯峨上皇隨身となさんかため、番長となす。泰弘澄子。〔葉黄〕同1・5・28)「父泰弘澄もと土御門上皇隨身となる旧勢により後嵯峨上皇番長隨身となす由あり。」「(葉黄)同1・6・1)		
	泰久則〔一〕	在：泰久員死去の替に召次長となし、左近将曹泰久員死去により、左近府生より右近将曹に任ず。〔葉黄〕宝治1・5・21)後嵯峨上皇隨身。〔経俊〕同1・10・9)	泰頼方〔一〕	任：左近将曹泰久員死去により、左近番長より右近府生に任ず。〔葉黄〕宝治1・5・21)「〔産部]総子内親王)		
宝治2年(1248)						
	泰兼躬〔一〕	在：後嵯峨上皇隨身。〔葉黄〕宝治2・1・1)後嵯峨上皇隨身。〔宇治]同2・2・21)	泰頼方〔一〕	在：後嵯峨上皇隨身。〔宇治]宝治2・2・21)「官人」。後嵯峨上皇隨身。〔葉黄〕同2・10・23)		
	下毛野武任〔一〕	在：〔宇治]宝治2・2・23)御隨身。藤原兼経隨身か。〔葉黄〕同2・10・23)	下毛野武秋〔一〕	在：〔宇治]宝治2・2・23)殿下御隨身。藤原兼経隨身か。〔葉黄〕同2・10・22)御隨身。〔葉黄〕同2・10・23)		